



武蔵野市水環境連続講座「水の学校」とは

「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える連続講座です。くらしの中の身近な水循環、下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水を取りまくさまざまなテーマを取りあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。2014年度からスタートし、4年目を迎えました。

連続講座レポート

第6回 修了式・最終講座

～「水の学校」から始める武蔵野の未来の水

12月16日、最終講座を行いました。水の学校名誉校長の橋本淳司氏をファシリテーターとして、今まで受講した講座をふまえて、最後のグループワークを行いました。最終講座の後は、修了式。松本市長からこれからへの期待と激励の言葉と共に修了証が渡され、新たな修了生のみなさんが誕生しました！

「水の大切さ」を伝え、育もう！

レポーター：水の学校サポーター 原田さん

「水の学校」も4期目の修了式を迎えました。

今期半年間（過去5回）の講座を振り返り討議しました。

受講による気づきや自分の行動の変化などを互いに伝え合い各グループがその内容を発表しました。テーマは『「水について伝える」を企画したら？』。「やってみたいこと」「できそうなこと」「もっと知りたいこと」を考える中から活発な議論が行われました。結論として共有されたのは「水の大切さ」を後世に伝え育てていくことでした。

最終講座の私の感想としては、受講生の方々が積極的に、テーマに取り組みまとめにむすび付けた真剣さを感じ取れました。次年度の「水の学校」が今期より盛大に開校されますよう願っています。

ワークショップでの意見（抜粋）

- 大人も子どもも医療や栄養の専門家から水の大切さをきく
- 水に親しむ（親水公園、世界のいろんな水を使ったカフェやレストラン）
- 学校や会社などのコミュニティを利用する
- 水辺の環境を守り、地下水を涵養することで、おいしい水を守る
- 湧水や川をめぐるツアーで現状と歴史を知り、紹介する。湧水が枯れた原因を考える
- 受講生が広めて市民の問題意識を向上する
- 小中学生向けに施設見学をする



これからも参加し続けたい

レポーター：水の学校サポーター 木村さん

今年度も無事に「水の学校」の終了式を迎えられてよかった。市長から修了バッジをもらい、第3回の講座で見学した森ヶ崎の水再生センターの様子を思い出した。水再生センターなどの工場見学に興味があるので、これからも時間の許す限り参加させていただきたい。職員の皆様もお疲れ様でした。

◀各自が興味関心のある内容を紙に書き、見せ合い、近い人を見つけてグループを作って話し合いに入りました。その後、グループごとに話し合った内容をまとめて発表しました。



受講生・サポーターの声より

- ・5回にわたる「水の学校」は水について知らなかった事を知り、大変参考になりました。「百聞は一見にしかず」実感です。
- ・最終回にして初めて少しでも各々の関心を共有した（最初にやりたかった）
- ・水の学校に参加すると水のこと+αの出会いや情報が得られるので、いい刺激になります。
- ・考えはいろいろで、それが又楽しく思いました。大切な水のことについて色々考えていこうと思います。



松下市長から受講生お一人ずつに修了証が手渡されました。また、橋本淳司氏からは修了バッジが手渡されました。

(事務局より)

受講生の皆様、半年間の講座お疲れ様でした。水の学校は連続講座を修了してからが本番です！半年間の講座を通して、今まで気にしていなかったことを意識するようになったこと、新しい視点や、新しい人とのつながりが生まれたことと思います。

水の学校では修了生の活動を応援しています。これからも一緒に武蔵野市を起点に、水循環や水環境について考えていきましょう！



2017年度修了バッジ

水コラム no.25：下水=臭い？ 硫化水素の発生メカニズム

下水は臭いというイメージはありませんか？トイレの排水のイメージが強く、そう思われている方も多いと思います。しかし、実は、流れている生下水を見学したことのある方からは、「思ったよりも臭くない」という感想をいただくことが多くあります。

下水道管に流れている水は、トイレのほか、洗濯、風呂の水、雨水（合流式の場合）、炊事の水、工場からの排水（水質基準を満たしたもの）など、さまざまなものがあります。これらの水を合わせたものは、流れている限り、あまり臭いが発生しないと言われています。

一方で、流れずに溜まっている下水は卵の腐ったような臭いがすることがあります。原因は硫化水素です。硫化水素は、下水が2時間以上、酸素の少ない状態で滞留すると発生しやすくなります。硫化水素は悪臭を発生させるほか、濃度によっては人間を一呼吸で死に至らしめるような有害物質であり、さらに、化学変化により硫酸を発生させて下水道施設のコンクリートなどを腐食・劣化させる原因ともなっています。

下水が流れずに溜まるのは、どんな場合でしょうか。

①ビルの地下など、道路下の下水道管より低い場所からの排水をポンプアップして下水道管に流すため、一時的にビル地下の排水槽（ビルピット）にためる場合②下水道管につまりが発生した場合、の2つが考えられます。

それぞれどのような対策をすればよいのでしょうか。

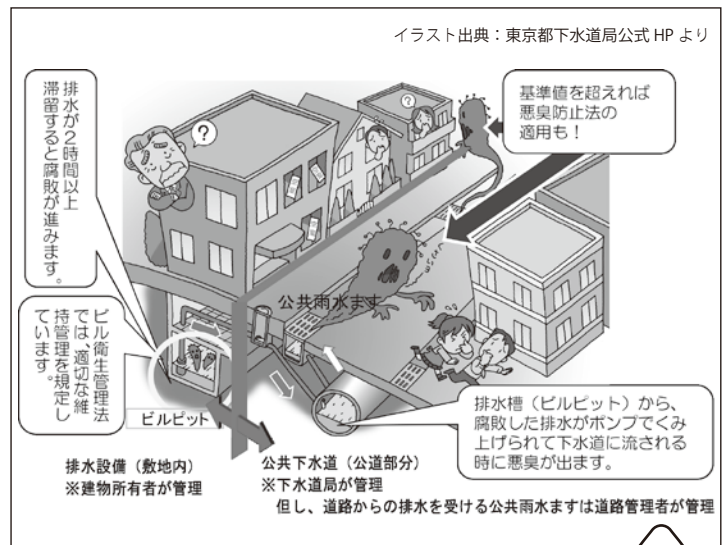
①について、ビルピットの改修をすることで、硫化水素の発生を抑えることができるようになります。市ではビルのオーナーがビルピットを改修する場合に助成金を出し、特に吉祥寺地区では地域の商店会とも連携して対応を行っています。②については、ラードなどの油脂を炊事場から下水に流

してしまうと、下水道管の中で冷えた油が管の内側に付着して徐々に塊になり、つまりが発生します。

つまりが溢れてから下水道課にご相談があることもありますが、その前に臭いなどの情報が入って調査をすることもあります。油脂を多く使う飲食店などでは、市の要綱により、下水道管に油脂を流さないような設備（グリストラップ）を備えることとされていますが、適切な管理がなされずに下水道管に油脂を流してしまっている場合も散見されます。そのようなときは、下水道課で該当の事業所に指導を行っています。

つまりを解消するためにかかった費用については、下水道法に基づき、つまりの原因となる行為をした方に請求する場合があります。

くさい臭いはまちのイメージダウンにもつながります。地域全体で硫化水素を発生させない意識と対策が必要です。



「水の学校」は2018年度も開校します！

「水の学校ニュースレター」をお読みいただきありがとうございました。「水の学校」は、2018年度も水に親しみ、水を考える講座として開校予定です。詳細は5月上旬以降、チラシ・市報（5/1号）などでお知らせいたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております！

【お問合せ】武蔵野市環境部下水道課 「水の学校」担当 TEL：0422-60-1867（平日午前8:30～午後5:15）